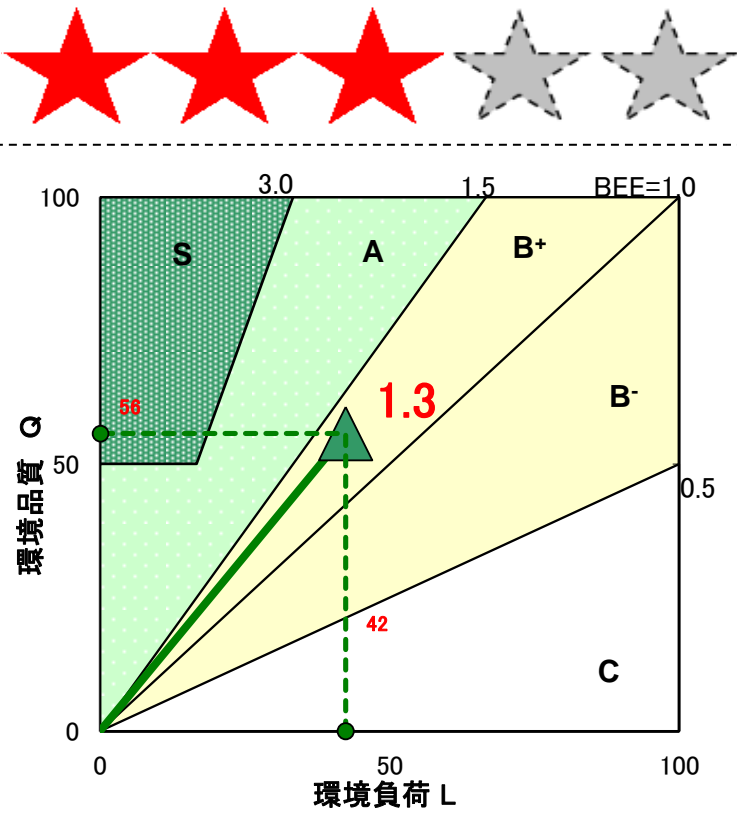


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	苓北クリニック・臥龍園	階数	地上3F	 <p>【外観図】シートへ貼り付けしてください。</p>
建設地	熊本県天草郡苓北町	構造	RC造	
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	XX 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	XXX 時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2014年1月 予定	評価の実施日	2013年4月22日	
敷地面積	2,465 m ²	作成者		
建築面積	1,427 m ²	確認日	2013年4月26日	
延床面積	3,077 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.3

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)




排出率

61%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

80

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

87.0
67.5
80.0
77.2

■ 熊本県重点評価基準

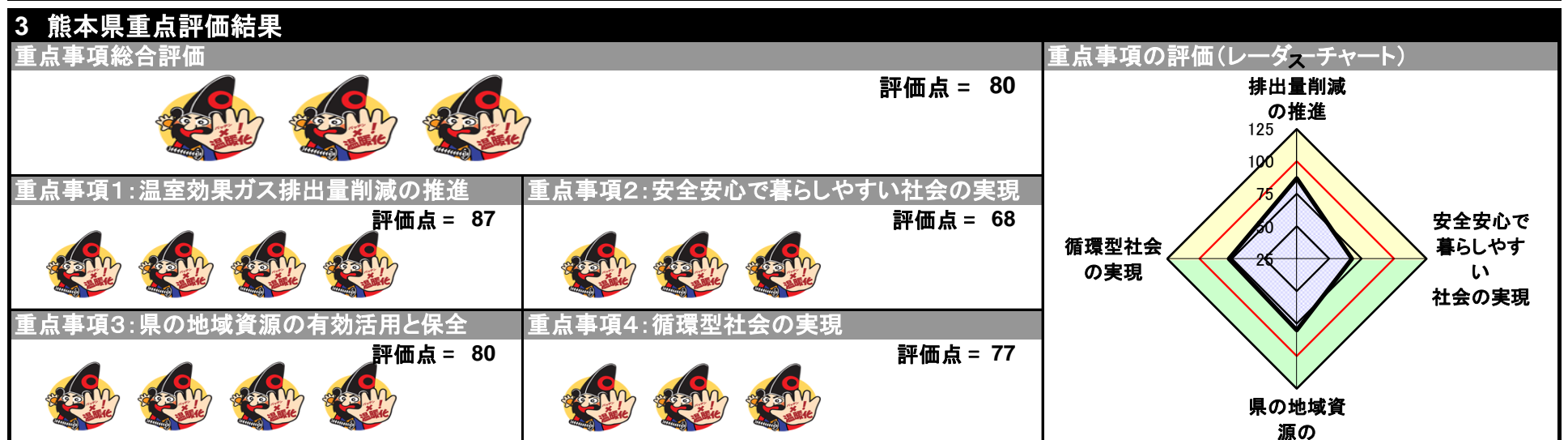
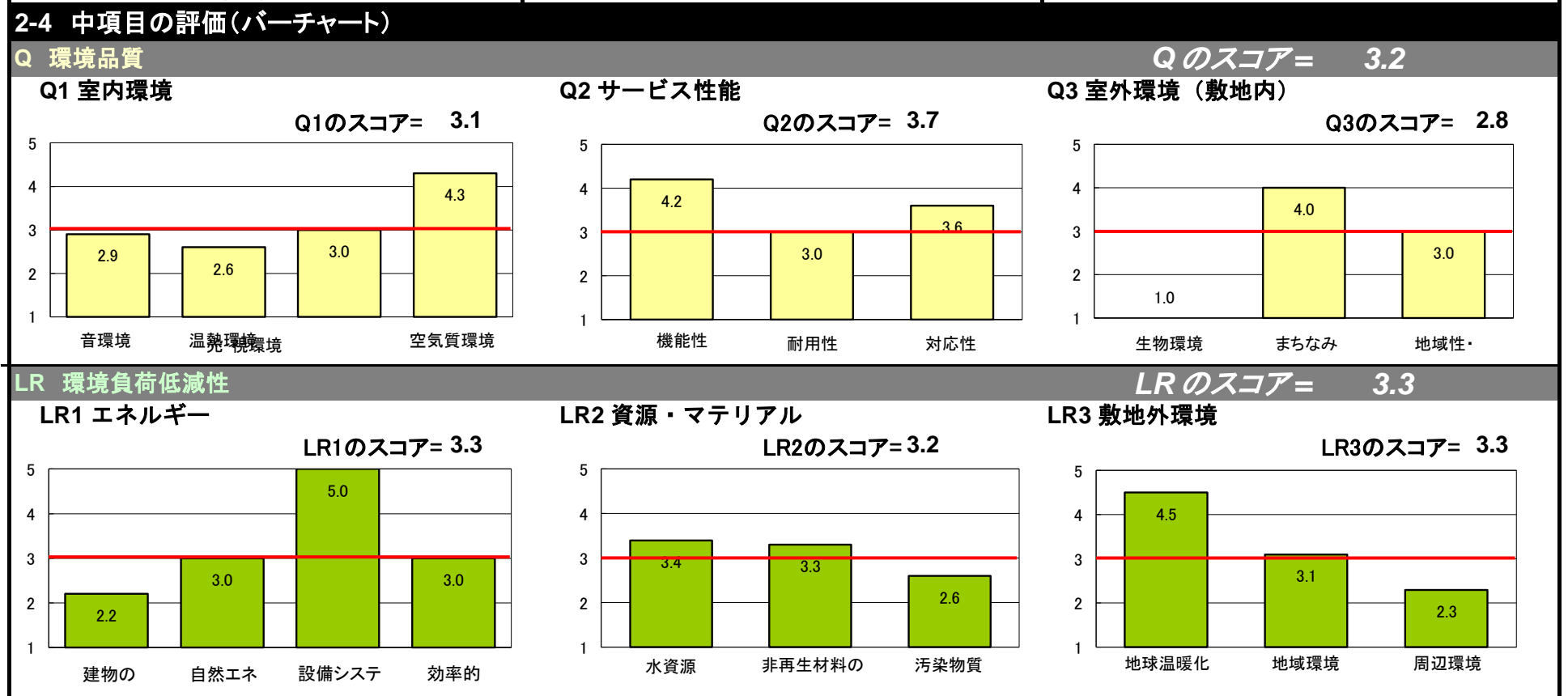
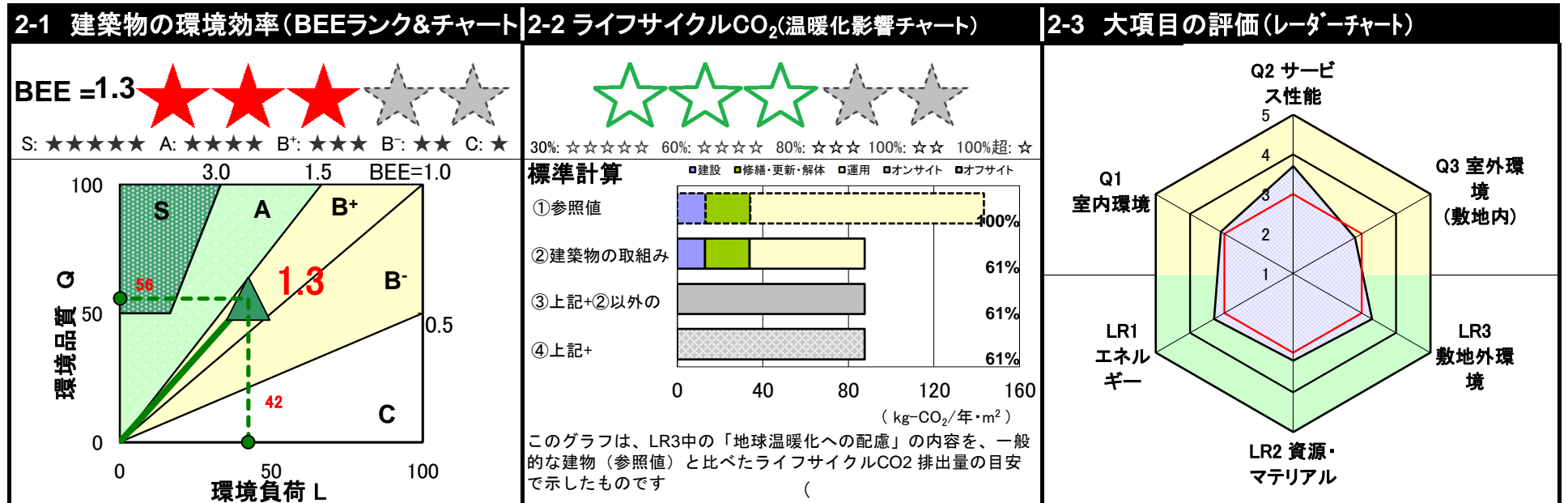
判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	☆☆☆☆☆
80点以上100点未満	☆☆☆☆
60点以上80点未満	☆☆☆
40点以上60点未満	☆☆
40点未満	☆

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	苓北クリニック・臥龍園	階数	地上3F
建設地	熊本県天草郡苓北町	構造	RC造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	XX 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年1月 予定	評価の実施日	2013年4月22日
敷地面積	2,465 m ²	作成者	
建築面積	1,427 m ²	確認日	2013年4月26日
延床面積	3,077 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

荅北クリニック・臥龍園

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.40					3.1
1 音環境		3.0	0.15	2.6	1.00			2.9
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1	室内騒音レベル	3.0	1.00	3.0	1.00			
2	設備騒音対策	-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	2.2	0.40			
1	開口部遮音性能	3.0	0.40	1.0	0.30			
2	界壁遮音性能	3.0	0.60	3.0	0.30			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	3.0	-	2.0	0.20			
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35	2.6	1.00			2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50			
1	室温	3.0	0.38	3.0	0.57			
2	負荷変動・追従制御性	-	-	-	-			
3	外皮性能	3.0	0.25	3.0	0.43			
4	ゾーン別制御性	3.0	0.38	-	-			
5	温度・湿度制御	-	-	-	-			
6	個別制御	-	-	-	-			
7	時間外空調に対する配慮	-	-	-	-			
8	監視システム	-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.0	0.25	3.0	1.00			3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.0	0.30			
1	昼光率	3.0	0.60	3.0	0.60			
2	方位別開口	-	-	3.0	-			
3	昼光利用設備	3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30			
1	照明器具のグレア	-	-	-	-			
2	昼光制御	3.0	1.00	3.0	1.00			
3	映り込み対策	-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		4.4	0.25	4.2	1.00			4.3
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63			
1	化学汚染物質	F☆☆☆☆を使用	5.0	5.0	1.00			
2	アスベスト対策	-	-	-	-			
3	ダニ・カビ等	-	-	-	-			
4	レジオネラ対策	-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38			
1	換気量	3.0	0.50	3.0	0.33			
2	自然換気性能	3.0	-	3.0	0.33			
3	取り入れ外気への配慮	3.0	0.50	3.0	0.33			
4	給気計画	-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1	CO ₂ の監視	3.0	-	-	-			
2	喫煙の制御	ビル全体禁煙	5.0	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.7
1 機能性		4.0	0.40	4.8	1.00			4.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1	広さ・収納性	3.0	-	5.0	1.00			
2	高度情報通信設備対応	1.0	-	3.0	-			
3	バリアフリー計画	3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	4.5	0.40			
1	広さ感・景観	3.0	-	4.0	0.50			
2	リフレッシュスペース	3.0	-	-	-			
3	内装計画	建物コンセプトに合わせた内装計画・照明計画	5.0	5.0	0.50			
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-			
1	維持管理に配慮した設計	維持管理の容易な内装材の選定	4.0	-	-			
2	維持管理用機能の確保	適切な掃除流し・スペースの確保	5.0	-	-			
3	衛生管理業務	-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1	耐震性	3.0	0.80	-	-			
2	免震・制振性能	3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.33	-	-			
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.23	-	-			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	2.0	0.23	-	-			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.09	-	-			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房・浴室はガルバニウムダクトを使用	4.0	0.08	-			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.15	-			
6	主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.23	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具 受水槽2分割	4.0	0.20	-	-
3	電気設備	電気室2階屋上に設置	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	MDF地上に設置	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.5	0.29	3.8	1.00
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	4.6	0.50
1	階高のゆとり	事務、病室エリア階高3.9m以上	5.0	0.60	5.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.1以上0.3未満	4.0	0.40	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.2	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保	空調機増設スペースを確保	4.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮		緑化率10%以上 適切な樹木の選定	4.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			2.2	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		省エネ計画書による	5.0	0.30	-	-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=50.8%	5.0			
集合住宅の評価			3.0			
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1 節水		節水コマ、節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	-
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメント	5.0	0.20	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げが分割可能	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.22	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質を含まない建材を使用	4.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.68	-	-
1 消火剤			-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			1.0	0.50	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		CO2排出標準計算による	4.5	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-
3 交通負荷抑制		適切な駐車場の確保	4.0	0.33	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制		ゴミの分別回収	4.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			2.3	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1 騒音			3.0	0.33	-	-
2 振動			3.0	0.33	-	-
3 悪臭			3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

介護老人保健施設（54床）とデイケア、診療所の複合施設。老健、デイケアにおいては老人が快適に利用できるよう採光、通風に配慮。特にバリアフリーで利用できる屋上広場では安全に外部レクリエーション等ができる。2階老健には避難用のスロープを設置。
診療所は機能性を重視。

Q1 室内環境

全館の禁煙化と内装材のF☆☆☆☆の完全採用によってシックハウス対策等 環境に配慮した計画としている。

Q2 サービス性能

老人のための施設（老健、デイケア）と診療所の併設のため、バリアフリー化は必須条件。3階屋上広場へも段差なしで行き来できるよう配慮。空間的ゆとり（十分な階高）に配慮することによって、設備の更新性を高めている。

Q3 室外環境（敷地内）

既存のフェンスやブロック積の門等を意図的に残し、地域周辺や沿道に違和感を与えないように工夫している。

LR1 エネルギー

断熱性能を高めることと、自然換気用の窓を極力設けることで負荷低減を図っている。

LR2 資源・マテリアル

節水コマを用い、節水に配慮。内装材の有害物質の非使用。

LR3 敷地外環境

東側隣地境界からできるだけ引いた建物配置とし、日照・通風に配慮した。

その他

外周の煉瓦積+コンクリートブロックとネットフェンス（既存）を残しつつ緑化し、周辺環境に同化するように配慮。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 苓北クリニック・臥龍園

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	79.7	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87	0.40	34.80
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.2	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				77.2	0.20	15.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数